2020・5・29【角川俳句賞2020 プランB】選51句

暖かくなればと思ふことばかり
寧楽と書けば唐天竺や春霞
春雪のいま本降りの暗みかな
耕して鍬ねつとりとしてきたる
呪文の如くチョコレイトや春休
泣き泣きて色の褪せたる涅槃絵図
仏生会桜餅など良からずや
ざくざくと浅蜊が浜と申さばや
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
川沿ひに子猫の出づるバルコニー
梅匂ふ医者の卵の徹夜明け
ひらひらと花びらは春越えられず
吾輩は西日に立てるポストなり
ころころと泉の底で転げをる
電柱や出水の町に灯を点す
埒もなく旅の疲れの籐寝椅子
ポンと抜くビール家ではプシュと開け

古茶といふ音の響きも良からずや
どの顔もプール疲れの授業なり
ゆるゆると起きてシャワーや昼餉前
蝉の穴しづか蟻の穴にぎやか
割箸の先に毛虫の巻き付きぬ
明るさの明日を信じて火取虫
柿の蔕黒く残りし若葉かな
切株を囲む走り根露けしや
切り出して柱のごとし新豆腐
一つづつ打つて百千鉦叩
金賞の菊の余生と日向ぼこ
引かれ行く牛の貫禄秋桜
皺寄せて熟柿の皮のひとところ
山一つ氷つてゐたる昼の酒
膝に来る冬の日差や猫が邪魔
火事跡の黒き柱や雪女郎
店先に氷らむと夜の水たまり

17行3段組12ポ　2020年5月29日　18:20〈1〉桐9

悲しさや風邪の母から引き離され
幼子も嘘の時は立て続け
おしやべりの子に耳貸して毛糸編み
結局は初案に戻る炬燵かな
眠さうで眩しさうなる日向ぼこ
いだかれてラグビーボール汗みどろ
何食つて声の大きな寒鴉
みづからをなきものにする落葉焚
水仙にエアコンの風あてぬやう
元旦に一句を得たる目出度さよ
去年今年物音もなき真の闇
正月の猫の欠伸も目出度けれ
行く年のその足音を聞かんとす
双六の波乱万丈忘れめや
耳糞の出たがつてゐる寝正月
初髪の銀髪いよいよ尊けれ
白紙へと戻る術なき古日記

2020・5・29【角川俳句賞2020 プランB】選50句

寧楽と書けば唐天竺や春霞
梅匂ふ医者の卵の徹夜明け
春雪のいま本降りの暗みかな
耕して鍬ねっとりと黒々と
泣き泣きて色の褪せたる涅槃絵図
仏生会桜餅など良かちずや
ざくざくと浅蜊が浜と申さばや
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
川沿ひに子猫の出づるバルコニー
ひらひらと花びらは春越えられず
柿の蔕黒く残りし柿若葉
古茶といふ音の響きも良からずや
電柱や出水の町に灯を点す
ゆるゆると起きてシャワーや昼餉前
どの顔もプール疲れの授業なり
埒もなく旅の疲れの籐寝椅子
白玉の熱きを冷ます氷水

ポンと抜くビール家ではプシュと開け
蝉の穴しづか蟻の穴にぎやか
割箸の先に毛虫が絡みつき
吾輩は西日に立てる赤い箱
明るさの明日を信じて火取虫
切株を囲む走り根露けしや
呪文の如くチョコレイトや露地の秋
引かれ行く牛の貫禄秋桜
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
切り出して柱のごとし新豆腐
皺寄せて熟柿の皮のひとところ
金賞の菊の余生と日向ぼこ
少しづつ進む夜業の時計なり
山一つ氷つてゐたる昼の酒
膝に来る冬の日差や猫が邪魔
おしやべりの子に耳貸して毛糸編み
みづからをなきものにする落葉焚

幼子も小さき嘘を立て続け
無残やな風邪の母から引き離され
白紙へと戻る術なき古日記
行く年のその足音を聞かんとす
元日の猫の欠伸も目出度けれ
初髪の金の娘に銀の祖母
歌留多取る水仕で冷えし手が強し
双六の波乱万丈忘れめや
耳糞の出たがつてゐる寝正月
いだかれてラグビーボール汗みどろ
結局は初案に戻る炬燵かな
何食つて声の大きな寒鴉
水仙にエアコンの風あてぬやう
店先に氷らむと夜の水たまり
火事跡の黒き柱や雪女郎
暖かくなればと思ふことばかり

17行3段組12ポ　2020年5月29日　23:23　〈1〉桐9

2020・5・30【角川俳句賞2020 プランB】選50句

寧楽と書けば唐天竺や春霞
梅匂ふ医者の卵の徹夜明け
春雪のいま本降りの暗みかな
耕して鍬ねつとりと黒々と
ビル裏に配管の巣や燕来る
泣き果てて褪せたる色の涅槃絵図
仏生会桜餅など良からずや
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
ざくざくと浅蜊が浜と申さばや
川沿ひに子猫の出づるバルコニー
生家跡には一面の春の草
ひらひらと花びらは春越えられず
柿若葉ところどころに蒂の黒
古茶といふ音の響きも古茶らしく
電柱が出水の町に灯を点す
ゆるゆると起きてシャワーを昼餉前
どの顔もプール疲れの授業なり
埒もなく旅の疲れの籐寝椅子
白玉の熱きを冷ます氷水
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
蝉の穴しづか蟻の穴にぎやか
割箸の先に毛虫がくねくねと
吾輩は西日に立てる赤い箱
明るさの明日を信じて火取虫
切株を囲む走り根露けしや
呪文の如くチョコレイトや露地の秋
引かれ行く牛の貫禄秋桜
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
切り出して柱のごとき新豆腐
金賞の菊の余生と日向ぼこ
山一つ氷つてゐたる昼の酒
膝に来る冬の日差や猫が邪魔
おしやべりの子に耳貸して毛糸編み
みづからをなきものにする焚火かな
幼子も小さき嘘を立て続け
無残やな風邪の母から引き離され
白紙へと戻る術なき古日記
行く年のその足音を聞かんとす
遠浅の沖に来てゐる宝船
初富士の一句を得たる目出度さよ
初髪の金の娘に銀の祖母
歌留多取る水仕で冷えし手が強し
耳糞の零れんとする寝正月
いだかれてラグビーボール汗みどろ
結局は初案に戻る炬燵かな
何食つて声の大きな寒鴉
水仙にエアコンの風あてぬやう
店先に氷らむと夜の水たまり
火事跡の黒き柱や雪女郎
暖かくなればと思ふことばかり

17行3段組12ポ　2020年5月30日　06:33　<1>　桐9

2020・5・30【角川俳句賞2020プランB】選50句

寧楽と書けば唐天竺や春霞
梅匂ふ医者の卵の徹夜明け
本降りに暗みたりけり春の雪
耕して鍬ねつとりと黒々と
ビル裏に配管の巣や燕来る
泣き果てて褪せたる色の涅槃絵図
仏生会桜餅など良からずや
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
ざくざくと浅蜊が浜と申さばや
土手ゆけば子猫の見ゆるバルコニー
生家跡には一面の春の草
ひらひらと花びらは春越えられず
柿若葉ところどころに蓆の黒
古茶といふ音の響きも古茶らしく
電柱が出水の町に灯を点す
ゆるゆると起きてシャワーを昼餉前
埒もなく旅の疲れの籐寝椅子
白玉の熱きを冷ます氷水
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
万緑の中の危ない橋わたる
蝉の穴しづか蟻の穴にぎやか
割箸の先に毛虫がくねくねと
吾輩は西日に立てる赤い箱
明るさの明日を信じて火取虫
切株を囲む走り根露けしや
呪文の如くチョコレイトや露地の秋
引かれ行く牛の貫禄秋桜
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
切り出して柱のごとき新豆腐
金賞の菊の余生と日向ぼこ
流星や奇跡はある日突然に
山一つ氷つてゐたる昼の酒
膝に来る冬の日差や猫も来て
おしやべりの子に耳貸して毛糸編み
みづからをなきものにする焚火かな
幼子も小さき嘘を立て続け
無残やな風邪の母から引き離され
白紙へと戻る術なき古日記
行く年のその足音を聞かんとす
御降の後の日和の定まりぬ
遠浅の沖に来てゐる宝船
歌留多取る水仕で冷えし手が強し
耳くその零れんとする寝正月
いだかれてラグビーボール汗みどろ
結局は初案に戻る炬燵かな
何食つて声の大きな寒鴉
水仙にエアコンの風あてぬやう
店先に氷らむと夜の水たまり
火事跡の黒き柱や雪女郎
暖かくなればと思ふことばかり

17行3段組12ポ　2020年5月30日　14:32　<1>　桐9

2020・5・31【角川俳句賞2020プランB】選49句

寧楽と書けば唐天竺や春霞
本降りに暗みたりけり春の雪
耕して鍬ねつとりと黒々と
ビル裏に配管の巣や燕来る
泣く程に色の褪せゆく涅槃絵図
仏生会桜餅など良からずや
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
ざくざくと浅蜊が浜と申さばや
土手ゆけば子猫の見ゆるバルコニー
生家跡には一面の春の草
ほのかなる匂ひの花の首飾り
古茶といふ音の響きも古茶らしく
電柱が出水の町に灯を点す
ゆるゆると起きてシャワーを昼餉前
埒もなく旅の疲れの籐寝椅子
白玉の熱きを冷ます氷水
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
万緑の中の危ない橋わたる
秋冬の愁ひはなけれ蝉の声
割箸の先に毛虫がくねくねと
吾輩は西日に立てる赤い箱
明るさの明日を信じて火取虫
遠花火虫けらどもは闇の中
切株を囲む走り根露けしや
呪文の如くチョコレイトや露地の秋
引かれ行く牛の貫禄秋桜
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
切り出して柱のごとき新豆腐
金賞の菊の余生と日向ぼこ
流星や奇跡はある日突然に
山の名の酒川の名の酒秋深し
行く秋の海に広がる河の果て
山一つ氷つてゐたる昼の酒
膝に来る冬の日差や猫も来て
おしやべりの子に耳貸して毛糸編み
みづからをなきものにする焚火かな
幼子も小さき嘘を立て続け
無残やな風邪の母から引き離され
白紙へと戻る術なき古日記
行く年のその足音を聞かんとす
歌留多取る水仕で冷えし手が早し
結局は初案に戻る炬燵かな
何食つて声の大きな寒鴉
水仙にエアコンの風あてぬやう
店先に氷らむと夜の水たまり
木のあはれ草のあはれを雪に消す
火事跡の黒き柱や雪女郎
梅匂ふ医者の卵の徹夜明け
暖かくなればと思ふことばかり

17行3段組12ポ　2020年5月31日　11:55　〈1〉桐9

2020・5・31【角川俳句賞2020プランB】選50句

寧楽と書けば唐天竺や春霞
本降りに暗みたりけり春の雪
耕して鍬ねつとりと重たけれ
ビル裏に配管の巣や燕来る
泣く程に褪せゆくままに涅槃絵図
仏生会桜餅など良からずや
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
ざくざくと浅蜊が浜と申さばや
土手ゆけば子猫の見ゆるバルコニー
生家跡には一面の春の草
ほのかなる匂ひの花の首飾り
古茶といふ音の響きも古茶らしく
電柱が出水の町に灯を点す
ゆるゆると起きてシャワーを昼餉前
埒もなく旅の疲れの籐寝椅子
白玉の熱きを冷ます氷水
ポンと抜くビール家ではプシュと開け

万緑の中に危ない橋かかる
秋冬の愁ひはなけれ蝉の声
割箸の先に毛虫がくねくねと
吾輩は西日に立てる赤い箱
明るさの明日を信じて火取虫
遠花火虫けらどもは闇の中
切株を囲む走り根露けしや
呪文の如くチョコレイトや露地の秋
引かれ行く牛の貫禄秋桜
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
畦をゆく白き軽トラ雁渡る
団栗を転がしてみる机かな
金賞の菊の余生と日向ぼこ
秋の灯の赤き点滅塔高し
流星や奇跡はある日突然に
真つ暗な紅葉の宿や月もなし
行く秋や海に広がる河の果て

17行3段組12ポ　2020年5月31日　13:54　〈1〉桐9

山一つ氷つてゐたる昼の酒
膝に来る冬の日差や猫も来て
おしやべりの子に耳貸して毛糸編み
みづからをなきものにする焚火かな
無残やな風邪の母から引き離され
白紙へと戻る術なき古日記
行く年のその足音を聞かんとす
友らみな老いて目出度き年賀状
歌留多取る水仕で冷えし手が早し
結局は初案に戻る炬燵かな
何食つて声の大きな寒鴉
水仙にエアコンの風あてぬやう
木のあはれ草のあはれを雪に消す
火事跡の黒き柱や雪女郎
梅匂ふ医者の卵の徹夜明け
暖かくなればと思ふことばかり

2020・5・31【角川俳句賞2020プランB ある日突然】選50句

3段組12ポ　2020年5月31日　14:14〈1〉桐9

寧楽と書けば唐天竺や春霞
本降りに暗みたりけり春の雪
耕して鍬ねつとりと重たけれ
ビル裏に配管の巣や燕来る
泣く程に褪せゆくままに涅槃絵図
仏生会桜餅など良からずや
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
ざくざくと浅蜊が浜と申さばや
土手ゆけば子猫の見ゆるバルコニー
生家跡には一面の春の草
ほのかなる匂ひの花の首飾り
古茶といふ音の響きも古茶らしく
電柱が出水の町に灯を点す
白玉の熱きを冷ます氷水
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
ゆるゆると起きてシャワーを昼餉前
万緑の中に危ない橋かかる

秋冬の愁ひはなけれ蝉の声
割箸の先に毛虫がくねくねと
埒もなく旅の疲れの籐寝椅子
吾輩は西日に立てる赤い箱
明るさの明日を信じて火取虫
遠花火虫けらどもは闇の中
切株を囲む走り根露けしや
呪文の如くチョコレイトや露地の秋
引かれ行く牛の貫禄秋桜
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
畦をゆく白き軽トラ雁渡る
秋の灯の赤き点滅塔高し
団栗を転がしてみる机かな
流星や奇跡はある日突然に
真つ暗な紅葉の宿や月もなし
行く秋や海に広がる河の果て
金賞の菊の余生と日向ぼこ

膝に来る冬の日差や猫も来て
おしやべりの子に耳貸して毛糸編み
山一つ氷つてゐたる昼の酒
みづからをなきものにする焚火かな
無残やな風邪の母から引き離され
白紙へと戻る術なき古日記
行く年のその足音を聞かんとす
友らみな老いて目出度き年賀状
歌留多取る水仕で冷えし手が早し
結局は初案に戻る炬燵かな
何食つて声の大きな寒鴉
卓の水仙縁側の福寿草
木のあはれ草のあはれを雪に消す
火事跡の黒き柱や雪女郎
梅匂ふ医者の卵の徹夜明け
暖かくなればと思ふことばかり

2020・5・31【角川俳句賞2020 プランB 菊の余生】選50句

17行3段組12ポ 2020年5月31日 15:29 〈1〉桐9

寧楽と書けば唐天竺や春霞
本降りに暗みたりけり春の雪
耕して鍬ねつとりと重たけれ
ビル裏に配管の巣や燕来る
涅槃絵図涙ながらに褪せゆくも
仏生会桜餅など良からずや
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
ざくざくと浅蜊が浜と申さばや
土手ゆけば子猫の見ゆるバルコニー
生家跡には一面の春の草
ほのかなる匂ひの花の首飾り
古茶といふ音の響きも古茶らしく
電柱が出水の町に灯を点す
白玉の熱きを冷ます氷水
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
ゆるゆると起きてシャワーを昼餉前
万緑の中に危ない橋かかる

秋冬の愁ひはなけれ蝉の声
割箸の先に毛虫がくねくねと
埒もなく旅の疲れの籐寝椅子
吾輩は西日に立てる赤い箱
明るさの明日を信じて火取虫
遠花火虫けらどもは闇の中
切株を囲む走り根露けしや
呪文の如くチョコレイトや露地の秋
引かれ行く牛の貫禄秋桜
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
畦をゆく白き軽トラ雁渡る
秋の灯の赤き点滅塔高し
団栗を転がしてみる机かな
流星や奇跡はある日突然に
真つ暗な紅葉の宿に月もなし
行く秋や海に広がる河の果て
金賞の菊の余生と日向ぼこ

膝に来る冬の日差や猫も来て
おしやべりの子に耳貸して毛糸編み
山一つ氷つてゐたる昼の酒
みづからをなきものにする焚火かな
無残やな風邪の母から引き離され
白紙へと戻る術なき古日記
行く年のその足音を聞かんとす
友らみな老いて目出度し年賀状
歌留多取る水仕で冷えし手が早し
卓の水仙縁側の福寿草
結局は初案に戻る炬燵かな
何食つて声の大きな寒鴉
木のあはれ草のあはれを雪に消す
火事跡の黒き柱や雪女郎
梅匂ふ医者の卵の徹夜明け
暖かくなればと思ふことばかり